資料２

「富山つながりフェア」開催結果

１　概要

昨年の幹事会において提案させていただいた、予防的な観点での具体的施策の実施について、PF で具体的な内容を検討。支援を求める声を上げやすい、声をかけやすい社会の実現に向けて県民の機運醸成を図る「富山つながりフェア」を開催。

開催日時	令和 8 年 8 月 22 日（土）15:00～19:00
会場	富山市民プラザ 2 階アトリウム
主な対象	30 代・40 代女性を中心とした、気軽な交流や居場所を求める方 申込不要　参加無料　途中参加・退出 OK
来場者数	43 名

・対象：孤独・孤立を感じる割合が高い 30 代 40 代の女性に設定しつつも、気軽に参加いただけるよう、広報では「孤独・孤立」「支援や相談」を前面には出さず、「ゆるいつながり」「気軽に話せる」をテーマとした。

・内容：ゆるいつながりの心地良さの感じていただくこと、参加者それぞれにあった居心地のよい時間や場所を体感していただくこと、相談の体験をしていただくもの（相談へのハードルを下げるため）として、各コーナーを設置。

・会場：気軽に立ち寄っていただける雰囲気とするため、会場は閉塞感がないスペースを選定し、会場周辺の夜のイベント（とやまナイトマルシェ）にあわせて、開催時刻を設定

・つながりサポーター養成講座修了者から、おしゃべり会ファシリテーター役を募集。講座での学びを実践していただく場とした。

２　アンケート結果

参考資料１のとおり

３　当日スタッフの感想・意見

(1) 全体の評価

・会場は笑顔や会話が多く、自由にテーブルを回って交流できる「ゆるっとした」雰囲気がつくられていた。
・来場者の滞在時間も比較的長く、居心地のよいイベントとして好評だった。
・おしゃべり、相談、情報提供、参加型企画、古本など多様なコーナーがあり、来場者がそれぞれの関心に合わせて過ごせていた。
・一人で過ごすことを好む人も多い一方、おしゃべり会は盛り上がっており、この場限りの関係性だからこそ話しやすいと感じる人もいた。

(2) 参加者の様子・ニーズ

- 男性の参加も多く、幅広い年代の来場が見られた。
- 仕事や年齢への不安、夫婦二人の生活の中での孤立感、人間関係で言いたいことを言えない苦しさなど、さまざまな悩みを抱える人が来場していた。
- 相談を利用した人からは、「話すことで気持ちが楽になった」という反応があった。
- パネル展示のアンケートでは、「自分は少数派だと感じる」人が多く、孤立感や生きづらさを抱える層への支援ニーズがうかがえた。
- 参加者は知人からの紹介による人が多く、相談窓口や居場所につながっていない初参加者、通りすがりの来場者は少なかった。

(3) 対象設定・広報に関する意見

- 当初想定していた 30～40 代女性に十分届いていたかは検証が必要。
- 「つながり」という言葉やイベントの趣旨がやや抽象的で、県民に伝わりにくかった可能性がある。
- 一方で、ゆるやかで敷居の低い打ち出しは、参加しやすさにつながったと評価された。

(4) 運営面

- オープンな会場は入りやすい反面、相談ブースとしてはプライバシー確保が難しい。
- スタッフ同士が顔見知りとなり、今後の連携や協働につながる成果もあった。

(5)今後に向けた提案

- コンテンツを絞り、対象やテーマを明確にした小規模・継続的な開催を検討する。
- 商業施設での「おしゃべりベンチ」や、50～60 代男性を対象に、企業出張相談などの実施の機会を設ける。

富山つながりフェアは、参加者が安心して話し、緩やかに交流できる居心地のよい場の提供として一定の成果があった。一方で、まだ支援につながっていない人への周知、イベント趣旨の明確化が今後の課題。